

小学校教員の専門性を高めた 質の高い授業の促進

～小学校教科担任制の導入～

手引き



大分県教育委員会
令和3年3月 (Ver.3)

目次



はじめに.....	1
1 学級担任制の抱える問題点.....	2
2 問題解決に向けた教科担任制の導入.....	3
3 「学級担任間の交換授業」導入の目的.....	4
4 導入の課題と対策.....	5
(1) 学校規模・課題に応じた教科選択.....	6
(2) 学習指導や生徒指導の充実.....	11
(3) 円滑な実施のための啓発.....	12
5 教科担任制推進校及び推進教員配置校.....	13
6 推進校及び推進教員配置校の導入状況.....	15
7 教科担任制推進の成果と課題.....	30

はじめに

県教育委員会は、次代を切り拓く子どもたちに求められる資質・能力の育成に確実に繋がる授業を創造するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をすすめています。

子どもたちの抽象的な思考力が高まる小学校高学年という時期の指導には、教科の高い専門性が特に求められます。また、思春期にさしかかり、子どもの様態が多様化するこの時期には、様々な教員による多面的な指導も求められます。

そこで、県教育委員会は、令和元年度から、小学校高学年の教科担任制が県内で広く導入されることを目指して、「小学校教科担任制推進地域」及び推進地域内の「小学校教科担任制推進校」を指定し、実践的研究を進めていただいています。

推進校9校が実施した教科担任制に関するアンケート調査によると、2年間で、「国語が好き」と答えた児童が14ポイント、「算数が分かる」と答えた児童が10.5ポイント、「自分から学習に取り組んでいる」と答えた児童が10.3ポイント増加するなどの成果が見られます。これは、教員一人が指導する教科数が減少し、教材研究が深められたことや、同一教科を複数学年で指導することにより、教科の系統性を踏まえた指導が行われたことなどによるものと捉えています。また、指導に当たる複数の教員が子どもの情報交換を頻繁に行うようになり、多面的な子ども理解に基づく組織的な生徒指導が行われるようになってきたという声も聞きます。

一方、導入をためらう学校からは、子ども理解という面で、学級担任の指導時数が少なくなることに不安をもつ教員の意識改革の難しさや日課表編成の難しさ、授業時数調整の煩雑さ等が度々指摘されています。それらの解決につながるヒントも本手引きには記されています。

令和3年1月の中央教育審議会答申では、令和4年度を目途に、小学校高学年からの教科担任制を導入することが示され、教科指導の専門性をもった教員によるきめ細かな指導の充実が求められています。各学校においては、本手引きや推進校の好事例を参考に、自校の規模や地理的条件、人的配置、児童の実態に応じて指導体制を工夫し、一層、質の高い授業が展開されることを期待します。

令和3年3月



大分県教育庁義務教育課

課長 内海 真理子

1 これまでの学級担任制の抱える問題点

① 学習指導について

- 教員のもつ得意な教科指導力が1クラスに留まりがち
- 指導教科数が多く、教材研究の時間確保が困難

およそ教員には得意な教科があり、学級担任制では、個々の教員のもつ専門性を校内で十分に生かすことができない場合もあります。

また、小学校の学級担任は指導教科数が多く、勤務時間内に教材研究や授業準備等が十分にできない場合もあります。

② 生徒指導について

- 学級担任との不適應による学校生活や学習への影響

学級担任制において、学級担任の指導に対して児童が不適應を起こすと、短期間で関係を改善することは難しく、学校生活や担任が担当する全ての教科学習に影響を及ぼしてしまうことや保護者との関係も難しくなる場合もあります。

③ 中1ギャップについて

- 中1での教科担任制の開始に伴う不適應の生徒の存在
- 接続期カリキュラムの準備不足

思春期という心身ともに発達課題の多い時期に、小学校卒業や中学校への入学などを経て、新たな学習方法や指導が異なる環境に入る際の移行やスタートが子どもにとって円滑に行われていない場合、不適應になる場合もあります。

2 問題解決に向けた教科担任制の導入

小学校における教科担任制の類型として、主に下記の4つがあります。
学級担任制の抱える問題点を解決するに当たり、今回目指すのは、類型④の「学級担任間の交換授業」です。

小学校で考えられる教科担任制の類型

① 完全教科担任制

(例) 中・高と同様の教科担任による指導

発達段階から公立の小学校では実施しにくい
人的配置も基本的に行われにくい

② 特定教科における専科教員の単独指導

(例) 体育専科教員、音楽科専科教員配置等による指導

多くの小学校ですでに導入

③ 学級担任とTT指導を行う専科担任

(例) 専科教員が学級担任と行うTT指導

多くの小学校ですでに導入

④ 学級担任間の交換授業

(例) 学級担任間で、特定の教科の授業交換で行う指導

今回導入を目指すもの



- ◆ 高学年を中心に
- ◆ 国語、社会、算数、理科、外国語科を中心に



3 「学級担任間の交換授業」導入の目的

学級担任間で長期的に授業を交換し、学習指導を進めていくメリットとして、主に下記の3点が挙げられます。

① 学習指導の充実

○教科の専門性に基づいて、指導方法の工夫改善が充実できます。

- 複数学級での授業実施による指導法及び評価方法の改善が図られる。
- 指導教科数の減少に伴い教材研究の時間の確保がしやすい。
- 教材研究の深化や教具の創意工夫がしやすい。



② 生徒指導の充実

○多面的な児童理解に基づいて、組織的・協力的な指導が充実できます。

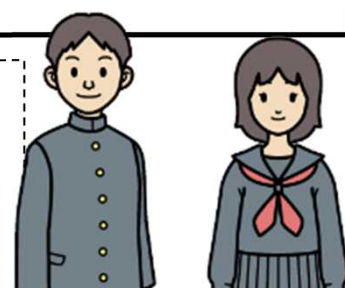
- 複数教員による指導体制により、児童理解が深まる。
- 情報共有のための教員間の連携強化が図られる。
- 学級経営から学年・学校経営への教員の意識改革が進む。



③ 中学校への円滑な接続

○学びの連続性を確保するための小・中学校の円滑な連携が進みます。

- 中学校進学時の学習等に対する児童の不安解消が図られる。
- 小・中学校の指導内容の系統性を踏まえたカリキュラムの検討が必然的に行われやすい。



4 導入の課題と対策

学級担任間で長期的に授業を交換し、計画的に学習指導を進めていくに当たって、主に下記の3点のような課題が考えられます。

ここからは、その課題に対する解決のヒントを紹介していきます。

(1) 学校規模・課題に応じた教科選択

6ページ参照



- ① 学級担任制を基盤とし、実状に応じた実施学年・教科を考える。
- ② 学校の実情に応じた計画的・弾力的な時間割編制・変更を教務主任等が行う。

(2) 学習指導や生徒指導の充実

11ページ参照



- ① 学年部会の定例化による情報交換の実施。
- ② 同じ教科担当者による打ち合わせや指導計画の作成。

(3) 円滑な実施のための啓発

12ページ参照



- ① PTAや地域との連携、また授業公開等の実施による啓発。
- ② 学習計画表等で授業内容、宿題等を児童・保護者に周知。

(1) 学校規模・課題に応じた教科選択

① 実状に応じた実施学年・教科

教科担任制を推進するに当たって、誰がどの学年のどの教科(高学年の国語、社会、算数、理科を中心に)を何時間もつのかを決定する必要があります。

【例1】 5・6学年計2学級での交換授業

⇒ 7ページ

【例2】 5・6学年合計3学級での交換授業

⇒ 8ページ

【例3】 5・6学年合計4学級での交換授業

⇒ 9ページ

【例4】 学級担任間による単元の交換授業

⇒ 10ページ

- 教員の得意教科等に配慮し、担当教科を決める。
- 担任外教員を加えて、指導教科数をさらに減らしたり、空き時間を増やしたりすることで、教材研究や教材作成の時間を確保する。

ヒント

② 計画的・弾力的な時間割編成と変更

各教科等において、標準の授業時数を踏まえて計画的に指導していくためには、時間割の作成と調整が重要です。学校の実情に応じた計画的・弾力的な時間割編成や変更は、教務主任等が中心となって行います。

ヒント

- 各教科担当の週指導計画に基づいて計画的に時間割変更をする。
- 週指導計画を職員室に掲示するなど、全校的な協力体制をつくる。
- 行事や特別教室の使用等、全校的な理解を得ながら時間割変更をする。
- 学級担任の交換授業は同じ時間帯に設定(変更が容易)する。
- 時間割編成ソフトや中学校のノウハウを活用する。

【例1】 5・6学年計2学級での交換授業

5年(A教員)					
	月	火	水	木	金
1	算	算	算	算	算
2	国	国	国	国	国
3	理	理	理	社	社
4	社	音	図	外	外
5	音	体	体	体	家
6	道	総	-	総	特

6年(B教員)					
	月	火	水	木	金
1	国	国	国	国	国
2	算	算	算	算	算
3	社	社	社	理	理
4	理	体	体	音	家
5	体	音	図	外	外
6	道	総	-	総	特

担任A教員 ⇒ 算数(5時間×2学級)、理科(3時間×2学級)

担任B教員 ⇒ 国語(5時間×2学級)、社会(3時間×2学級)

A教員					
	月	火	水	木	金
1	5年	5年	5年	5年	5年
2	6年	6年	6年	6年	6年
3	5年	5年	5年	6年	6年
4	6年	5年	5年	5年	5年
5	5年	5年	5年	5年	5年
6	5年	5年	-	5年	5年

B教員					
	月	火	水	木	金
1	6年	6年	6年	6年	6年
2	5年	5年	5年	5年	5年
3	6年	6年	6年	5年	5年
4	5年	6年	6年	6年	6年
5	6年	6年	6年	6年	6年
6	6年	6年	-	6年	6年

※ 日課表は参考であり、実際には月もしくは学期毎に日課表を組み替え、時数を調整する必要がある。

◎例えば、担任の担当教科数が9教科 ⇒ 7教科となります。

○ 担任外教員を加えることで、さらに教科数が減少し、空き時間もでき、教材研究の時間も確保できます。

○ 担任外の教員が配置されていない学校は、実施教科の工夫により、担当教科数が減少されます。

【例2】 5・6学年合計3学級での交換授業

5年(A教員)					6年1組(B教員)					6年2組(C教員)							
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	理	音	図	音	家	1	国	図	音	家	音	1	体	体	体	外	外
2	体	体	体	社	社	2	算	算	算	算	算	2	国	国	国	国	国
3	国	国	国	国	国	3	社	社	社	理	理	3	算	算	算	算	算
4	算	算	算	算	算	4	理	国	国	国	国	4	社	社	社	理	理
5	社	外	外	理	理	5	体	体	体	外	外	5	理	音	図	音	家
6	道	総	-	総	特	6	道	総	-	総	特	6	道	総	-	総	特

担任外の
D教員
⇒ 国語
(5時間×3学級)
⇒ 6年1組の
外国語(2時間)
⇒ 6年1組の
体育(3時間)

担任A教員 ⇒ 理科(3時間×3学級)
担任B教員 ⇒ 算数(5時間×3学級)
担任C教員 ⇒ 社会(3時間×3学級)

A教員					B教員					C教員					D教員								
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	5年	5年	5年	5年	5年	1		6-1	6-1	6-1	6-1	1	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2	1	6-1				
2	5年	5年	5年			2	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	2				5年	5年	2	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2
3				6-1	6-1	3	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2	3	6-1	6-1	6-1			3	5年	5年	5年	5年	5年
4	6-1			6-2	6-2	4	5年	5年	5年	5年	5年	4	6-2	6-2	6-2			4		6-1	6-1	6-1	6-1
5	6-2	5年	5年	5年	5年	5						5	5年	6-2	6-2	6-2	6-2	5	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1
6	5年	5年	-	5年	5年	6	6-1	6-1	-	6-1	6-1	6	6-2	6-2	-	6-2	6-2	6			-		

※ 着色のコマは空き時間を示す。

※ 日課表は参考であり、実際には、月もしくは学期毎に日課表を組み替え、時数を調整する必要がある。

◎ 例えば、担任の担当教科数が9教科 ⇒ 3～6教科となります。

◎ 担任の空き時間は6～7時間となります。※担任外教員1名を加えた場合。

○ 担任外の教員を加えることで、教科数が減少し、空き時間もでき、教材研究の時間も確保できます。

○ 担任外の教員を加えることで、国・算・社・理の4教科で交換授業が可能です。

【例3】 5・6学年合計4学級での交換授業

5年1組(A教員)						5年2組(B教員)						6年1組(C教員)						6年2組(D教員)					
月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金	
1	社	音	体	体	家	1	国	国	国	国	国	1	理	体	音	家	社	1	音	家	家	外	外
2	家	理	図	社	社	2	体	外	家	理	理	2	算	算	算	算	算	2	国	国	国	音	図
3	国	国	国	国	国	3	社	音	図	音	体	3	音	社	社	理	理	3	算	算	算	算	算
4	算	算	算	算	算	4	理	家	外	社	社	4	国	図	国	国	国	4	社	社	社	理	理
5	音	外	外	理	理	5	算	算	算	算	算	5	体	国	家	外	外	5	理	体	体	国	国
6	特	総	-	総	道	6	特	総	-	総	道	6	特	総	-	総	道	6	特	総	-	総	道

**担任外の
E教員**
 ⇒ **社会**
 (3時間×4学級)

 ⇒ **体育**
 (2時間×4学級)

担任A教員 ⇒ **理科**(3時間×4学級)、**家庭**(2時間×4学級)
 担任B教員 ⇒ **外国語**(2時間×4学級)、**音楽**(2時間×4学級)
 図工(1時間×4学級)
 担任C教員 ⇒ **国語**(5時間×4学級)
 担任D教員 ⇒ **算数**(5時間×4学級)

A教員						B教員						C教員						D教員						E教員					
月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金	
1	6-1	6-2	6-2	6-1	5-1	1	6-2	5-1	6-1	6-2	6-2	1	5-2	5-2	5-2	5-2	5-2	1						1	5-1	6-1	5-1	5-1	6-1
2	5-1	5-1	5-2	5-2	5-2	2		5-2	5-1	6-2	6-2	2	6-2	6-2	6-2			2	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	2	5-2			5-1	5-1
3				6-1	6-1	3	6-1	5-2	5-2	5-2		3	5-1	5-1	5-1	5-1	5-1	3	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2	3	5-2	6-1	6-1		5-2
4	5-2	5-2		6-2	6-2	4		6-1	5-2			4	6-1		6-1	6-1	6-1	4	5-1	5-1	5-1	5-1	5-1	4	6-2	6-2	6-2	5-2	5-2
5	6-2		6-1	5-1	5-1	5	5-1	5-1	5-1	6-1	6-1	5		6-1		6-2	6-2	5	5-2	5-2	5-2	5-2	5-2	5	6-1	6-2	6-2		
6	5-1	5-1	-	5-1	5-1	6	5-2	5-2	-	5-2	5-2	6	6-1	6-1	-	6-1	6-1	6	6-2	6-2	-	6-2	6-2	6			-		

※ 着色のコマは空き時間。

※ 日課表は参考であり、実際には、月もしくは学期毎に日課表を組み替え、時数を調整する必要がある。

◎ 例えば、担任の担当教科数が9教科 ⇒ 1～3教科となります。

◎ 担任の空き時間は5時間となります。※担任外教員を1名加えた場合。

○ 担任外の教員を加えることで、教科数が減少し、空き時間もでき、教材研究の時間も確保できます。

【例4】 学級担任間による単元の交換授業

単元のみでの交換授業を試行的に行う方法もあります。単元のみであれば、年度途中でも交換授業を導入でき、本格導入に向けた準備にもなります。

また、算数の図形領域の指導が得意、国語の説明文の指導が得意、といった個々の教員のもつ専門性も生かれます。

ヒント

- ① 年間指導計画から、指導する時期と時数がほぼ同じ単元を見付ける。
- ② 交換が可能になるよう、時間割を調整する。
- ③ 担当教科を決める。【例】B教員は説明文の指導が得意なので、A教員が算数、B教員が国語を担当する。
- ④ 交換した単元の評価を行い、担任に渡す。

【例1】 異学年間

指導月	5年(A教員)				6年(B教員)			
	算数		国語		算数		国語	
	単元名	配時	単元名	配時	単元名	配時	単元名	配時
11月	わり算と分数	6	固有種が教えてくれること(説明文)	6	角柱と円柱の体積	6	『鳥獣戯画』を読む(説明文)	6
担当	A教員		B教員		A教員		B教員	

【例2】 同一学年間

指導月	6年1組(A教員)				6年2組(B教員)			
	算数		国語		算数		国語	
	単元名	配時	単元名	配時	単元名	配時	単元名	配時
11月	角柱と円柱の体積	6	『鳥獣戯画』を読む(説明文)	6	角柱と円柱の体積	6	『鳥獣戯画』を読む(説明文)	6
担当	A教員		B教員		A教員		B教員	

※ 算数は教育出版、国語は光村図書の年間指導計画を参考に作成。

(2) 学習指導や生徒指導の充実

① 学年部会の定例化

定期的に学級担任と関係教員で次週の計画や児童の学習状況に共有することが必要です。

特に児童の安全や生徒指導に関わる内容等については速やかに共有する必要があります。

5・6年合同部会も考えられます。



ヒント

- 曜日と時刻を決め、週に1回、学年部会を設定する。
- ノートの記述の仕方や発言の方法などの学習方法等、児童が混乱しないよう、指導方法を共有していく。
- 週指導計画に基づき、指導内容や宿題について、協議、調整する。
- 配慮を要する児童の共通理解や支援について検討する。

② 同じ教科担当者による打ち合わせや指導計画の作成

例えば、5年生の国語を担当する教員と6年生の国語を担当する教員がいる場合、同じ教科担当者で教材研究を行ったり、指導計画の作成したりすることで、5年生と6年生を見通した、より系統的な指導計画の作成や学習指導ができます。

ヒント

- 時間割を作成する際、同じ教科担当者の空き時間が同じ時間帯になるよう工夫し、打合せ時間を確保する。
- 指導計画、指導案、教材、学習プリント等、ファイルを共有し、同じ教科担当者の教材研究や学習指導に役立てる。

(3) 円滑な実施のための啓発

① PTAや地域との連携、授業公開の実施

小学校教科担任制を円滑に実施していくには、PTAや地域との連携が必要です。小学校教科担任制の目的や期待される効果を周知していくことはもちろん、授業公開等で積極的に担任間で授業交換をしている様子を見ていただくことも大切です。



ヒント

- 年度当初のPTA総会や学校だより等で、小学校教科担任制の目的や期待される効果を保護者や地域へ周知し、理解を得る。
- 学校評価等で定期的な評価を行う。
- 学校公開日等の機会に、積極的に交換授業を取り入れ、小学校教科担任制を啓発していく。

② 授業内容、宿題等、児童・保護者へ周知

小学校教科担任制を円滑に実施していくには、小学校教科担任制の趣旨や具体的な方法等はもちろん、授業内容や宿題について、保護者と児童に分かりやすく周知していく工夫が必要です。



ヒント

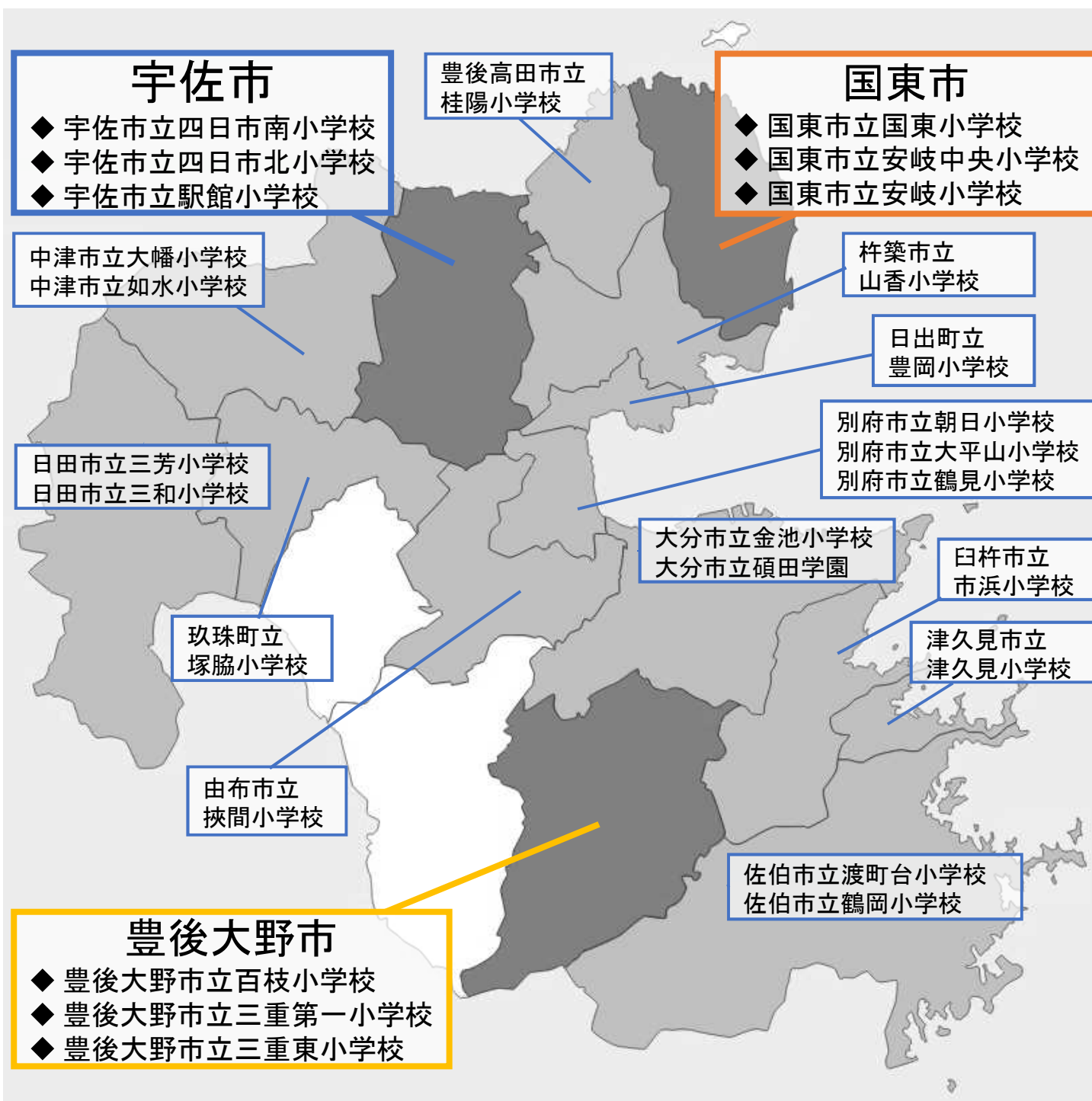
- 週の学習計画表等を作成して配布し、1週間の大まかな授業内容、持ち物や宿題等を確実に周知する。
- 児童の係活動を活用し、教科担任の指導の下、各教科係が学習内容や宿題等を連絡黒板等に記入する。

5 教科担任制推進校及び推進教員配置校

平成31年4月より、宇佐市、国東市、豊後大野市を小学校教科担任制推進地域に指定し、域内の9校を推進校に指定しています。

令和2年度4月からは、推進教員の配置校が18校増え、県内27校で教科担任制を推進してきました。

27校の実践で明らかになった成果や課題を年度毎にまとめ、県内全ての小学校に発信し、教科担任制を推進していきます。



② 小学校教科担任制推進教員について

ア 小学校教科担任制推進教員は、県教育委員会が導入・促進を目指す小学校高学年における教科担任制(学級担任間で国語・社会・算数・理科・外国語を中心に授業交換を行なう指導)(以下、「小学校教科担任制」という。)を推進する。

イ 小学校教科担任制推進教員は、学級担任は行なわず、原則として高学年の国語・社会・算数・理科・外国語の中から少なくとも1～2教科を担当する。

ウ 小学校教科担任制推進教員は、自校の小学校教科担任制の推進に係る資料(工夫した点・成果や課題等)を適宜、県教育委員会に提供する。

エ 県教育委員会は、小学校教科担任制の更なる充実に向け、「小学校教科担任制推進地域(以下、「推進地域」という。)」及び推進地域内に「小学校教科担任制推進校(以下、「推進校」という。)」を指定する(平成31年度～令和3年度)。

オ 推進校の管理職及び小学校教科担任制推進教員等は、県教育委員会が開催する「小学校教科担任制推進校連絡協議会」に参加し、取組の成果や実践上の課題とその解決方法等について協議を行うとともに、市町村教育委員会の指導のもと、その取組を域内の全小学校に広めるよう努める。

カ 推進校は、取組の成果を測るため、県教育委員会の準備する調査を年3回(4月・10月・2月)実施し、「学びに向かう力」等の向上について測定するとともに、その結果を県教育委員会(義務教育課)に報告する。

キ 推進校は、第5学年においては、大分県学力定着状況調査及び市町村独自の学力調査又は推進校独自の学力調査、第6学年においては、全国学力・学習状況調査及び市町村独自の学力調査又は推進校独自の学力調査を利用して、取組の成果を検証しその結果を県教育委員会(義務教育課)に報告する。

ク 小学校教科担任制推進教員を所管する市町村教育委員会は、「市町村学力向上アクションプラン」に掲げる目的を達成するために、本務校において、教科担任制による授業を実施するとともに、小学校教科担任制の取組を推進するため、その成果を域内外に広く公開するとともに県教育委員会に提供する。

なお、小学校教科担任制推進教員が実施する教科及び授業時間数については、市町村教育委員会が導入・推進計画に基づいて適切に定める。

ケ 県教育委員会は、小学校教科担任制の更なる推進・充実を図るため、小学校教科担任制推進教員に対して、年間2回の「小学校教科担任制推進教員協議会」を実施する。

コ 県教育委員会は、小学校教科担任制推進教員を所管する市町村教育委員会より提供された研究の成果を精選し、ホームページに掲載したり、「小学校教科担任制推進の手引き」等を更新したりして、県内全小学校への教科担任制の導入を推進する。

6 推進校及び推進教員配置校の導入状況

教科担任制推進教員配置校27校の導入の概要

①高学年における学級担任間の交換授業の実施状況（推進教員の授業は除く）

配置校	高学年 学級数	交換授業実施学級数 ※下段は実施率								
		国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語
27校	115	42	58	45	33	45	54	40	24	10
		37%	50%	39%	29%	39%	47%	35%	21%	9%

◎学級担任間の交換授業を多く実施している学校（教科数）

- 別府市立朝日小学校（6／9教科）
- 津久見市立津久見小学校（6／9教科）
- 佐伯市立渡町台小学校（6／9教科）
- 佐伯市立鶴岡小学校（6／9教科）



②高学年学級担任による学年をまたいだ交換授業の実施状況（推進教員の授業は除く）

配置校	高学年 学級数	学年をまたいだ交換授業実施学級数 ※下段は実施率								
		国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語
27校	115	6	15	5	9	15	7	10	8	6
		5%	13%	4%	8%	13%	6%	9%	7%	5%

◎学級担任による学年をまたいだ交換授業を多く実施している学校（教科）

- 国東市立国東小学校・・・国語、社会、理科、音楽
- 杵築市立山香小学校・・・社会、算数、理科、外国語
- 津久見市立津久見小学校・・・社会、音楽、図工、体育



③5教科（国語、社会、算数、理科、外国語）の教科担任制の完全実施状況

配置校	高学年 学級数	5教科完全 実施学級数	実施率
27校	115	30	26%

※5教科完全実施学級数・・・5教科の教科担任全てが他の学級でも同教科を指導している学級数をカウント

④高学年における教科担任制実施学級担任の担当教科数と週当たりの空き時間数

教科担任制実施 学級担任数	担当教科数 平均 ※学級担任のみ	空き時間数 平均 ※学級担任のみ
99	4.1	6.6

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

◎5教科の教科担任制の完全実施校（第5・6学年で実施）

- 杵築市立山香小学校
- 別府市立朝日小学校



◎学級担任一人当たりの担当教科数が少ない学校（教科数平均）

- 別府市立朝日小学校（1.9教科）
- 津久見市立津久見小学校（2.3教科）
- 玖珠町立塚脇小学校（2.4教科）
- 大分市立碩田学園（2.75教科）

小学校教科担任制推進教員配置校の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に、推進校9校、推進教員配置校18校の教科担任制導入状況を作成しました。自校の規模に応じて、参考にしてください。

①教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

どの教科で学級担任間の交換授業が行われているかを示しています。

②担当教科数と週当たりの空き時間数

①のような教科担任制を導入した結果、担当教科数がどれだけ減ったか、空き時間が週当たりどれほどできたかを示しています。

③日課表作成のポイント

日課表を作成する際に、各校がどのような工夫をしたかを示しています。

④円滑な導入へのポイント

教科担任制を円滑に導入するために、各校がどのような工夫をしたかを示しています。

中津市立大幡小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推進・・・小学校教科担任制推進教員

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる教員数
6年1組	A先生	A	A	推進	専科	B	A	C	専科	専科	7
6年2組	B先生	B	B	推進	専科				専科	専科	7
6年3組	C先生	C	C	推進	専科				専科	専科	7

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	3
B先生	6	3
C先生	6	3
推進	1	10

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 教科担任を進めることで、勤務時間外の教材研究の時間が削減されるなど、**働き方改革**につながることを意識すること
- 学年に関わる**教員みんなで児童を指導**するという意識をもつこと
- **学習規律**の共通理解



中津市立如水小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	A	推 進	専 科	A	A	専 科	A	B	5
5年2組	B先生	B	B	推 進	専 科	B	A	専 科	B	B	5
6年1組	C先生	C	C	推 進	専 科	C	C	専 科	C	D	5
6年2組	D先生	D	D	推 進	専 科	D	C	専 科	D	D	5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	5
B先生	5	5
C先生	5	6
D先生	5	6
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

- 各担任の**希望**や**実践経験**、**専門性**を活かしながらか決定できるよう配慮

③日課表作成のポイント

- 1時間目は、できるだけ学級担任の授業にし、**1日のスタート**の子どもの様子を観察できるよう配慮
- 空き時間を、5～6時間確保し、**教材研究**や**教材準備**、**事務的業務**を行うことができるよう配慮

④円滑な導入へのポイント



- 学習ルールに差が生じ、児童が混乱しないように、**学習規律**について共通理解
- 週末に**学年部会**を開き、週案、課題、準備物の確認、情報交換を実施
- 定例の学年部会だけでなく、**日常的に情報交換**を行うようにし、児童のつまずきや気になることを素早く共通理解

豊後高田市立桂陽小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	推 進	A	A	B	A	A	A	専 科	A	4
6年1組	B先生	推 進	B	専 科	B	B	B	B	専 科	A	5
6年2組	推 進	推 進	B	専 科	B	推 進	推 進	推 進	専 科	A	5

※太線囲みは学級担任間の交換授業
※学校事情により、推進教員が担任を兼任

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	6	3
B先生	5	4
推 進	4	4

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

- **中学への連携**を考え、高学年で実施
- 各教員の教科指導に関する**専門的知識・技能**を考慮し担当教科を決定

③日課表作成のポイント

- 国語、算数はできるだけ**午前中**に入れるように計画
- 特別支援学級、通級指導教室との調整を図りながら作成

④円滑な導入へのポイント



- 年度初めに**授業規律**について共通理解し、全員が同じ歩調で行えるよう**研修**を実施
- **2ヶ月に一度**、きちんと取組がなされているか、分掌部会や学年部会をもち、**振り返り**と**見直し**を実施

宇佐市立駅館小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる教員数
5年1組	A先生	A	A	B	専科	A	A	推 進	専科	専科	6
5年2組	B先生	A	B	B	専科	B	B	推 進	専科	専科	6
6年1組	C先生	推 進	E	C	専科	C	C	専科	C	専科	6
6年2組	D先生	推 進	E	C	専科	D	D	専科	D	専科	6
6年3組	E先生	推 進	E	C	専科	E	E	専科	E	専科	6

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

- 学級担任の持ち時間が同じくらいになるように計画
- 各教員が得意な教科を指導に活かせるよう配慮

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	6
B先生	4	6
C先生	3	7
D先生	3	5
E先生	3	6
推 進	2	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 国語や算数は、可能な限り午前中に入れるよう配慮
- 算数は、T2指導ができるよう日課表を作成
- 理科は、2時間続きで授業ができるよう日課表を作成

④円滑な導入へのポイント

- 年度当初、職員会議で本校における教科担任制の成果や本年度の進め方を確認
- 始業式に高学年のオリエンテーションを開催し、どの教科にも共通する約束事を確認
- 毎週木曜日の学年部会において、課題の量や出し方、次週日課表の調整、子どもの様子の情報交換を実施

宇佐市立四日市北小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる教員数
5年1組	A先生	A	A	推 進	専科	A	A	B	A	専科	5
5年2組	B先生	B	B	推 進	専科	B	A	B	B	専科	5
6年1組	C先生	D	C	C	専科	D	C	C	C	専科	3
6年2組	D先生	D	D	C	専科	D	C	D	D	専科	3

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

- 各担任等の専門性が活かせるよう担当教科を決定
- 単元の難易度に応じて、少人数指導を実施
- 互見授業や校内研修などを通じた授業力の向上

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	6
B先生	5	6
C先生	5	5
D先生	5	5
推 進	1	8 ※4年算数担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 教務と推進教員が連携して作成し、行事などで変更がある時には推進教員が週案を立案
- 今年度は3年生から6年生で学年内の交換授業を実施

④円滑な導入へのポイント

- 学習指導や生徒指導の充実、中学校への円滑な接続、さらには、働き方改革の視点を含んだ取り組みである教科担任制のよさやいろいろな学校での取り組み、課題などについての研修を実施
- 児童の学習状況や相談事などを学年部や指導に関わる教員と共有することを大事にし、その時間を週に一度確保

宇佐市立四日市南小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる教員数
4年	A先生	A	A	A	推 進	A	A		B	専 科	4
5年	B先生	B	B	B	推 進	A	推 進	B	B	専 科	4
6年1組	C先生	C	C	D	推 進	C	D	C	C	専 科	4
6年2組	D先生	C	D	D	推 進	C	D	D	D	専 科	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	5
B先生	5	5
C先生	5	5
D先生	5	5
推 進	2	7 ※3・4年理科担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



- 教員の得意教科による授業の交換
- 教員一人一人の指導時間が均一となるよう、交換授業や専科授業を設定
- 教材研究時間の効率化

③日課表作成のポイント

- 高学年を中心に交換授業やTT授業が組めるよう留意
- 4・5年生の算数、国語で少人数指導、TT指導ができるよう留意

④円滑な導入へのポイント

- 交換授業により、教材研究等、逆に負担にならないよう考慮しながら設定



国東市立国東小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる教員数
5年	A先生	B	C	推 進	A	C	専 科	専 科	専 科	A	5
6年1組	B先生	B	C	推 進	A	C	B	専 科	専 科	B	5
6年2組	C先生	B	C	推 進	A	C	C	専 科	専 科	C	5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	2	8
B先生	3	8
C先生	4	7
推 進	1	8

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



- 教員の経験や専門性を考慮したうえで、担当したい教科を出し合い、決定
- 5年生では、少人数指導ができるよう、日課表を工夫

③日課表作成のポイント

- 月曜の1時間目と毎日の終わりは担任が授業できるように配慮
- 毎日の空き時間が偏らないように調整

④円滑な導入へのポイント

- 授業者ごとに学習ルールに差がでないよう、授業規律等を共通理解
- 日課表の確認と子どもたちの様子を交流することを目的に、週に一度高学年部会を開くことを確認
- 高学年の児童にはオリエンテーション、保護者には文書で教科担任制の概要を周知



国東市立安岐小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	推 進	B	A	専 科	推 進	専 科	B	専 科	A	5
6年	B先生	推 進 推 進	B B	A A	専 科	推 進	B	B	B	B	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教科担任制の趣旨を理解し、積極的に取り組もうとする意欲があること
- これまでの経験や本人の得意教科を考慮したこと

③日課表作成のポイント

- 6年生38人を少人数に分け、指導の充実を図る
- 発達段階に応じて専科教科を取り入れ、教科担任制への移行を図る
- 1時間目は担任の担当教科とし、突発的な事案に対しても柔軟に対応できるようにした

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	2	7
B先生	5	6
推 進	2	6 ※2・4年音楽担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント



ヒント

- 教科担任制の目的や方法について
- 昨年度の成果や課題を整理し、今年度の推進方法についての確認
- 毎週火曜日の学年部会で話す内容についての確認

国東市立安岐中央小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	A	専 科	A 推 進	専 科	B	B	推 進	A	A	5
6年	B先生	B	B	推 進	専 科	B	B	推 進	A	B	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 毎日授業がある国語と算数に関しては、学級担任が子どもの理解度を把握できるように配慮
- 算数については、6年生は推進教員、5年生は人数や実態より、少人数・習熟度別で2クラスに分けて指導

③日課表作成のポイント

- 高学年担当だけでなく、全学年で受けもつ授業時数を平均化し、教材研究・授業準備・宿題やノートを見る時間を全校規模で確保できるように日課表を作成

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	9
B先生	5	9
推 進	3	9 ※5・6年書写担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント



ヒント

- 教科担任制の目的や実施方法等を4月当初の職員会議で共通理解
- 学校全体の授業時数や日課表の組み方、教科担任の配置の仕方、授業形態(少人数・習熟度別指導)のあり方を全体で共通認識
- 生徒指導面はその都度、機会を逃さないように複数の教員で多面的にみて、情報交換を実施

杵築市立山香小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	推 進	A	B	C	A	A	A	A	C	4
6年1組	B先生	推 進	A	B	C	B	B	推 進	B	C	4
6年2組	C先生	推 進	A	B	C	C	C	推 進	C	C	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	7
B先生	4	6
C先生	5	6
推 進	2	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



- 教員の得意教科を尊重して担当教科を決定

③日課表作成のポイント

- 各教員の週当たりの持ち時数になるべく均等化するように留意
- 1時間目はなるべく学級担任の授業になるよう配慮

④円滑な導入へのポイント



- 高学年部で共通して取り組む事項(授業規律や宿題の出し方等)について部会を開き、共通理解
- 今後、部会を定例化しながら、学習指導や生徒指導面での取組を共有し、「高学年だより」で保護者に周知することで、連携を強化

日出町立豊岡小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	B	推 進	専 科	A	B	A	A	専 科	5
5年2組	B先生	A	B	推 進	専 科	B	B	B	B	専 科	5
6年1組	C先生	C	C	推 進	専 科	C	D	C	C	専 科	5
6年2組	D先生	D	D	推 進	専 科	D	D	C	D	専 科	5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	10
B先生	5	10
C先生	5	10
D先生	5	10
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

- 各教科の得意分野が担当できるように留意した。

③日課表作成のポイント

- 推 進、専科の授業のコマを優先的に決定
- 3・4年生も学級担任間の交換授業できるよう、日課表を工夫



④円滑な導入へのポイント



- 教科担任制を円滑に推進するために、全教職員で日課表を作成
- 学習スタンダード(きまり)やノートの書き方を全学年で共通理解
- 学年部会を毎週火曜日に関き、学習内容、生活指導上の共通理解が必要な子どもの確認を実施
- 2年生～4年生でも教科担任制や交換授業を行い、「学習指導」「生活指導」の充実を図るよう共通理解

別府市立朝日小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生				推 進	専 科				専 科	6
5年2組	B先生	B	A	C	推 進	専 科	C	A	A	専 科	6
5年3組	C先生				推 進	専 科				専 科	6
6年1組	D先生				推 進	専 科		推 進	D	専 科	6
6年2組	E先生	D	F	E	推 進	専 科	F	推 進	E	専 科	6
6年3組	F先生				推 進	専 科		推 進	F	専 科	6

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	3
B先生	1	10 <small>※初任研に係る校内指導を除く。</small>
C先生	2	5
D先生	2	7
E先生	2	7
F先生	3	7
推 進	2	5

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

- 教職員の**経験**や**得意な教科**を優先させて教科を決定

③日課表作成のポイント

- 理科や家庭科など、**実習を伴う教科**については、**2時間続き**で授業ができるよう工夫
- 初任研校内指導教員が所属する5年生を軸にし、専科、初任研を優先させながら日課表を作成



④円滑な導入へのポイント

- 職員間で、**教科担任制のねらい**や**意義**を共通理解
- 日常的に**情報交換**を実施

別府市立大平山小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A		推 進		A	A	A	A	A	3
5年2組	B先生	B	B	推 進	A	B	B	B	B	B	3
6年1組	C先生	C		推 進		C	C	C	C	C	3
6年2組	D先生	D	D	推 進	C	D	D	D	D	D	3

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	7	5
B先生	7	5
C先生	7	5
D先生	7	5
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

- 担任同士が交換する教科について時間数が同じになるよう配慮
- 学校で設定した教科(理科・社会)のうち、**得意とする教科**を受けもつよう配慮

③日課表作成のポイント

- 推進教員が受けもつ授業時間帯は、同一学年が続くように位置付け
- 学習の進度が同じになるように、また、2時間続きの授業が可能になるように、**交換した教科を同じ曜日の続いた時間に位置付け**



④円滑な導入へのポイント

- 特別教室の割り当てを優先
- 初めての取組なので、学年内の交換から実施
- 打ち合わせの時間を確保



別府市立鶴見小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
6年1組	A先生	A	C	B	推 進	専 科	A	A	C	専 科	6
6年2組	B先生				推 進	専 科	B	B		専 科	6
6年3組	C先生				推 進	専 科	C	C		専 科	6

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 子どもを多面的に見るため、**学期ごとに教科を交代**
- 特定の担任に負担が偏らないよう、もち時間数に配慮
- 準備や片づけに時間を要する理科は推進が担当
- 総合など、教科担任制に不向きなものは担任が担当

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	7
B先生	3	7
C先生	4	7
推 進	2	9 ※6年算数T2担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 学級担任の授業が、**1日に必ず入る**よう配慮
- 特定の教科が同じ日に重ならないようにするために、**バランス**を考慮

④円滑な導入へのポイント



- 学年で宿題を**一週間分統一**し、実施
- 成績、評価を共有し、担任している子どもの**全教科について把握**
- ノート、感想ノート、教科新聞など**目に見えるもの**を授業で作成し、**評価に活用**

大分市立碩田学園 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	B	A	A	推 進	D	専 科	B	A	専 科	7
5年2組	B先生			B			推 進			専 科	専 科
5年3組	C先生	D	C	C	推 進		専 科	専 科	7		
5年4組	D先生			D	推 進		専 科	専 科	7		

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 各担任等の**専門分野、得意教科**を考慮
- 学習内容に応じて、国語、総合的な学習の時間、道徳においても一部教科担任制を導入
- 週当たりの担当時数が同じになるように配慮
- 算数科において、児童の習熟の差に対応するため、**習熟度別指導**ができる体制づくり

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	8
B先生	3	8
C先生	2	8
D先生	3	8
推 進	1	6

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



③日課表作成のポイント

- 交換授業の時間をそろえ、日課を組みやすいように配慮
- 算数の時間をそろえ、4学級を5コースに分け、いつでも**習熟度別指導**ができるように配慮

④円滑な導入へのポイント



- 教科担任制の意義、児童や保護者**情報の共有**
- 児童が授業を受けるときの**きまり**(挨拶、ノートの使い方、発表の仕方等)の**統一**

大分市立金池小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
6年1組	A先生	A	A	B	専科	専科	B	A	A・B	推 進	7
6年2組	B先生	A	B	B	専科	専科	B	A	A・B	推 進	7
6年3組	C先生	D	C	C	専科	専科	C	D	C・D	推 進	7
6年4組	D先生	D	D	C	専科	専科	C	D	C・D	推 進	7

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教科担任制を導入する旨を教職員に事前に話し、その成果や日課表の組み方を説明し、共通理解
- 学年会をもち、各担任がどの教科を受けもつかを決め、担当学年の意向を尊重

③日課表作成のポイント

- 道徳の時間を同じ曜日・時間に固定し、1教材を複数の教員で授業ができるよう工夫
- 総合的な時間を同じ曜日・時間に固定することで、合同授業や学級を解いた学習プログラムを組めるよう配慮
- 複数の日課表案を作成することで、学習の進捗状況に応じたカリキュラムで教科担任制を行えるよう配慮

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	7
B先生	4	7
C先生	4	7
D先生	4	7
推 進	2	17 ※6年書写担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 同じ教科を受けもつ教員で教材研究を行い、同じ教材・指導方法・指導観で授業を実施
- 児童の情報は記録を残し、情報を共有すること



臼杵市立市浜小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	推 進	B	専科・A	A	A	B	D	専科・A	専科	7
5年2組	B先生	推 進	B	専科・B	A	A	B		専科・B	専科	7
6年1組	C先生	推 進	C	専科・C	C	C	D		専科・C	専科	6
6年2組	D先生	推 進	推 進	専科・D	C	C	D		専科・D	専科	6

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教員の得意分野、希望教科に配慮し、空き時間数が同程度になるように相談して決定

③日課表作成のポイント

- 職員室に週当たりの時間割表を作成、掲示し、どの教員がどの時間にどの教室にいるのかが、誰にでも分かるよう配慮
- 理科を担当する教員には、理科の前の時間は空き時間として実験準備や予備実験の時間を確保
- 教員の勤務形態に配慮し、外国語の授業は午前中に配置したり、同学年の授業を連続して行えるよう配慮

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	5
B先生	5	4
C先生	5	5
D先生	5	6
推 進	2	5

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 高学年部会(定例)の設定・・・火曜放課後
- 授業ルールの共通理解・・・話し方、聞き方、ノート指導、学習用具家庭学習の内容及び児童への伝達方法
- 児童が、授業を担当する教員を把握したり、親近感を感じたりできるように、各教室に係る教員の担当授業、顔写真、おもしろメッセージ等を模造紙にまとめ、掲示



津久見市立津久見小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる教員数
5年	A先生	A		推 進	推 進			推 進		専 科	5
6年1組	B先生		C	A	推 進	B	B	推 進	C	専 科	5
6年2組	C先生	B			推 進			推 進		専 科	5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 5・6年生をまたいだ交換授業により、子どもたちを複数の教職員で見守り、支援できる体制を構築
- 分掌等、業務に偏りが生じないように授業時数を調整
- 外国語教育の充実を図るため、専科教員に加えて推進教員をT2として配置

③日課表作成のポイント

- 5年生の算数については、習熟度別指導ができるように、5年担任と推進教員が同じ時間に算数に入るように計画
- 可能な限り、国語・算数は午前中になるように計画
- 6年生の授業は、2クラスの進度が同じになるよう、同じ日に同じ教科を入れるように配慮

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	2	5
B先生	3	4
C先生	2	8
推 進	3	7

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 授業の前後の挨拶、学習のルールや用具等を統一し、どのクラスでも同じように授業がすすめられるよう留意
- 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」などノートの書き方、使う色を統一し、板書の仕方を共通理解
- 教科の係をクラスごとに決め、連絡係が持ち物や課題の確認に来るよう工夫



由布市立挾間小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる教員数
5年1組	A先生	推 進	A	A	専 科	B	A	B	A	専 科	5
5年2組	B先生	推 進		B	専 科		B		B	専 科	5
6年1組	C先生	推 進		C	専 科			C	C	専 科	6
6年2組	D先生	推 進	E	D	専 科	D	C	D	D	専 科	6
6年3組	E先生	推 進		E	専 科			E	E	専 科	6

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 担任の先生の専門性を生かした教科決定
- 時間数が、ほぼ同数になるよう工夫

③日課表作成のポイント

- 職員会議で全職員に説明して共通理解を図った後に、高学年から日課表を作成
- 教室、特別教室、体育館等の使用が重ならないように考慮
- 推進教員の授業が重ならないように、5・6年の国語の時間をずらして設定

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	9
B先生	5	9
C先生	4	10
D先生	4	10
E先生	4	7
推 進	1	8

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 職員会議で手引きを用いて成果を紹介し、取り組みについて共通理解
- 学年部会で日課表を組み、行事や日程の変更に対応



佐伯市立渡町台小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	C	推 進	B	A	C	A	専 科	専 科	6
5年2組	B先生	B		推 進					専 科	専 科	6
5年3組	C先生	C		推 進					専 科	専 科	6
6年1組	D先生	D	E	F	D	E	専 科	F	専 科	専 科	6
6年2組	E先生	E							専 科	専 科	6
6年3組	F先生	F							専 科	専 科	6

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	7
B先生	2	9
C先生	3	6
D先生	2	11
E先生	3	6
F先生	3	5
推 進	1	8

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

- 校務分掌にも配慮、特に研究主任(D教員)の負担軽減
- 得意な分野や意向を考慮し負担に感じないように配慮
- 担当授業時数にできるだけ差が出ないように配慮

③日課表作成のポイント

- 体育専科(体育の組み方)の意向
- 特別教室(音楽室・家庭科室・理科室等)の割り当てと授業の兼ね合い
- 連学年にわたる交換授業担当者の重複

④円滑な導入へのポイント

- 担当教科選定と担当授業時数との兼ね合い
- 教科担任制に取り組む5・6年の日課表や特別教室の割り当て等



佐伯市立鶴岡小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
6年1組	A先生	A	B	推 進	B	専 科	A	B	A	専 科	5
6年2組	B先生			推 進		専 科				専 科	5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	3
B先生	3	5
推 進	1	9 ※5年算数T2担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

- 学級担任は該当学年の経験豊富な教員や学校全体のバランスを考慮して配置
- 担当教科は各教員の専門分野の教科(得意な教科)を指導に活かせるように配慮

③日課表作成のポイント

- 教科担当が最初に行う授業を1つの学級に固定しないように配慮
- 国語と算数は、午前中に実施できるように配慮
- 理科と体育は、事前準備の関係で指導日が可能な限り同一日になるよう配慮

④円滑な導入へのポイント

- 教科担任制の意義や共通の約束事項を確認するため、年度当初に学年オリエンテーションを開催
- 児童の指導・支援に関する情報交換や次週日課表の作成についての学年部会を毎週火曜日開催することの確認
- 保護者からの理解・協力を得るため、始業式当日に学校・学級それぞれから文書で通知



豊後大野市立三重第一小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	推 進	D	B	専 科	A	A	A	専 科	A	8
5年2組	B先生	推 進		C	専 科		B		専 科	B	8
6年1組	C先生	推 進		専 科	C		C		専 科	C	8
6年2組	D先生	推 進		専 科	専 科		専 科		D	8	

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 事前に担当可能な教科について教員間で**情報交換**

③日課表作成のポイント

- 昨年度3学期の日課表をもとにして作成
- 月・水・金の**週3日間の1時間目**は、担任が担当できるよう日課表を工夫
- 5年生は週2時間、6年生は週3時間、学活や総合的な学習の時間を同じ時間に位置付けることで、**学年での統一した活動**を保証

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	8
B先生	4	8
C先生	3	8
D先生	3	8
推 進	1	8

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 原則として前週月曜日の16時から編成会議をもち、**次週の日課表を編成**
- 基本の日課表から変更がある場合は、**1年生から4年生に関わる教員**にもすぐに情報を共有



豊後大野市立三重東小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
6年1組	A先生	A	専 科	B	推 進	A	A	A	A	専 科	5
6年2組	B先生		専 科		推 進	B	B	B	B	専 科	5

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 学力向上
- 教員の**得意分野**を生かした配置(適材適所)
- 高学年教員の**負担軽減**

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	6
B先生	5	6
推 進	2	6

※5年理科、6年算数T2担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。



④円滑な導入へのポイント

- 昨年度の教科担任制の取組についての**成果と課題**
- **教科担任制を尊重した行事設定**、日課表作成を確認



豊後大野市立百枝小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年	A先生	A	推 進	A	専 科	B	B	推 進	A	A	4
6年	B先生	B	推 進	B	専 科	B	B	推 進	A	B	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教員の資質・能力(専門性)やバランスを考慮して、担任・担当を決定
- 児童の実態や昨年度の反省を考慮して、教科・指導体制(理科専科・交換授業・TT指導)を決定

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	4	8
B先生	5	8
推 進	2	8 ※5・6年算数T2担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 4年・5年・6年の算数で、TT指導ができるよう工夫
- 5年・6年の体育・音楽・図工が担任による交換授業ができるよう工夫
- なるべく、1時間目は担任が授業できるように配慮



④円滑な導入へのポイント



- 教科担任制の目的や運用についての共通理解
- 学年や教科、指導体制についての共通理解
- 保護者・児童への説明についての共通理解

日田市立三芳小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	B	推 進	A	A	B	A	A	専 科	4
5年2組	B先生	B	B	推 進	A	B	B	B	A	専 科	4
6年1組	C先生	C	D	推 進	C	C	C	C	C	専 科	4
6年2組	D先生	D	D	推 進	C	D	D	D	D	専 科	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

- 教員の資質・能力(専門性)や経験年数・男女等のバランスを考慮して、担任・担当を決定
- 授業担当時間、空き時間が同程度になるよう配慮

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	7
B先生	5	7
C先生	6	7
D先生	6	7
推 進	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

③日課表作成のポイント

- 3・4年生も発達段階に応じて教科担任制を実施
- 国語、算数は、可能な限り午前中に入れるように配慮
- 5・6年の社会・理科が学級担任による交換授業が行えるように配慮



④円滑な導入へのポイント



- 「新大分スタンダードに基づく授業の徹底」、「学習規律・学習用具」についての共通理解
- 推進教員や専科教員と学級担任との連携の在り方について確認
- 3・4年生も可能な限り交換授業を行い、高学年からの教科担任制に向けた素地づくり

日田市立三和小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	A	専科	推 進	A	B	B	A	A	A	4
5年2組	B先生	B	専科	推 進				B	B	B	B
6年1組	C先生	C	専科	推 進	D	C	C	C	C	C	4
6年2組	D先生	D	専科	推 進				D	D	D	4

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	5	8
B先生	6	8
C先生	6	8
D先生	5	8
推 進	1	8

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

- 社会科専科教員は生徒指導主任でもあり、3～6年生のすべての社会科の授業を受けもつことで日常的に多くの児童と接する機会をもち、指導の効果を上げることも意図
- 学年部(2学級)は、ベテランと若手のペアになるよう配慮し、学級づくりや教科指導についての相談体制が機能するよう工夫
- 校務分掌の量が多くなりがちな高学年担任について、教材研究や事務作業の時間確保のため、持ち時間・持ち教科数を少なくするよう配慮

③日課表作成のポイント

- 隣接学級と「理科」「家庭科」「音楽」等で交換授業が組めるよう工夫
- 隣接学級で学年部会がもてるよう、週に3時間は、両クラスともに専科が入る時間を位置付けるよう工夫



④円滑な導入へのポイント

- 専科授業の際は、学級担任は、隣接学級の担任との打ち合わせや教材研究等を実施
- 学級担任が教室にとどまって専科教員による授業を参観することで、自らの指導方法の工夫改善に資する
- 専科教員が出張等で不在の場合は、学級担任が教科を入れ替えて授業を行い、教育課程の円滑な遂行を図る



玖珠町立塚脇小学校 の導入状況

「令和2年度小学校教科担任制推進に係る取組状況」を基に作成

①高学年の教科担任制（学級担任間の交換授業）導入の概要

※推 進・・・小学校教科担任制推進教員

年 組	担 任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	指導に関わる 教員数
5年1組	A先生	B	A	A	推 進	専科	A	専科	専科	専科	6
5年2組	B先生		B		推 進	専科	B	専科	専科	専科	6
6年1組	C先生	D	E	C	推 進	専科	C	専科	専科	専科	7
6年2組	D先生				推 進	専科	D	専科	専科	専科	7
6年3組	E先生				推 進	専科	E	専科	専科	専科	7

※太線囲みは学級担任間の交換授業

②担当教科数と週当たりの空き時間数

	担当教科数	空き時間数(週当たり)
A先生	3	6
B先生	3	6
C先生	2	7
D先生	2	7
E先生	2	10
推 進	1	8 ※4年理科担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

- 学級担任の希望を聞きながら、交換授業を行う教科担当を決定
- 空き時間になるべく偏らないよう工夫

③日課表作成のポイント

- 外国語枠、専科枠、6年部、5年部、初任研の指導時間、支援学級・通級教室、低学年の順に日課表を決定
- 交換授業は、できる限り同じ時間帯に配置
- 午前と午後に同じ教科が偏らないよう配慮



④円滑な導入へのポイント

- 教科担任制の目的、日課表作成や調整、学習規律の徹底、学年部会のもち方、宿題、担任以外の教員の協力体制、保護者や児童への説明について協議し、共通理解



7 教科担任制推進の成果と課題

推進校で実施した質問紙調査結果の推移(H31～R2年度)

対象児童：小学校教科担任制推進3地域9校の第5・6学年 約800名

質問内容	肯定的回答の割合		H31 R3 4月⇒2月	【参考】 R2年度県調査 質問紙結果 (第5学年)
	H31 4月	R3 2月		
国語が好き	65.3%	79.3%	+14.0%	59.2%
国語が分かる	84.8%	92.7%	+7.9%	89.7%
算数が好き	71.0%	79.9%	+8.9%	60.6%
算数が分かる	82.6%	93.1%	+10.5%	83.2%
社会が好き	70.7%	76.7%	+6.0%	53.2%
社会が分かる	86.6%	91.9%	+5.3%	82.8%
理科が好き	85.4%	84.1%	-1.2%	74.3%
理科が分かる	92.6%	92.0%	-0.6%	89.0%
外国語(活動) が好き	79.4%	76.7%	-2.7%	70.8%
外国語(活動) が分かる	83.8%	86.3%	+2.5%	※質問項目なし
自分から進んで学習 に取り組んでいる	75.1%	85.4%	+10.3%	79.4%
教科担任制 はよい	89.3%	92.3%	+3.0%	※質問項目なし

- 特に、学級担任間の交換授業が進んだ国語、算数、社会において、「好き」、「分かる」と回答した児童が増えています。
- 授業中、主体的に学習に取り組んでいる児童が増えています。
- 多くの児童が、教科担任制を肯定的に評価しています。

教科担任制推進教員から出された成果と課題

第2回小学校教科担任制推進教員協議会(令和2年2月5日開催)より

1 推進教員から出された成果

児童にとって

- いろんな先生と勉強ができて楽しいと回答する児童が多い。
- 算数や国語の授業が好きとアンケートに回答する児童が増えた。
- 学習意欲が増したことにより、わからないところを質問する児童が増えた。

教員にとって

- 5・6年の学習の系統的なつながりを意識して教材研究や指導ができた。
- 教材研究や教材の準備をする教科が減り、担当教科の準備に専念できた。
- ICTを活用した教材準備をすることができ、児童の意欲向上につながった。
- 教員の専門性の醸成につながっている。
- 担当教科の専門性が向上している。
- 教材研究の時間を確保でき、専門性の向上を図れた。

2 推進教員から出された課題

- | | | |
|--|---|--|
| ▲ 日課表の作成に時間と労力がかかる。 | ▶ | ○ 日課表をデータ化して調整時間を減らしたり、学年会を定例化し、次週の日課表を早めに調整したりした。 |
| ▲ 生徒指導面で、個に向き合う時間が限られ、寄り添うことも限られてしまいがちである。 | ▶ | ○ 学年部で指導ができるよう、児童の学習や生活の様子等について、定期的に情報交換を行った。 |
| ▲ 初任の教員にとって、担当をしない教科があるのは不安である。 | ▶ | ○ 空き時間に担当外の教科の授業を見たり、3年間で全ての教科を担当できるよう、校内で配慮したりする。 |
| ▲ 少数だが、教科担任制を否定的にとらえている保護者に理解を得ていく必要がある。 | ▶ | ○ 教科担任制の授業をPTAや学校開放日などに積極的に参観してもらうことで、保護者や地域の方にそのよさを伝えた。 |

令和2年度教科担任制推進校の成果と課題(まとめ)



宇佐市立駅館小学校 の成果と課題 33ページ

宇佐市立四日市北小学校 の成果と課題 34ページ

宇佐市立四日市南小学校 の成果と課題 35ページ

国東市立国東小学校 の成果と課題 36ページ

国東市立安岐小学校 の成果と課題 37ページ

国東市立安岐中央小学校 の成果と課題 39ページ

豊後大野市立三重第一小学校 の成果と課題 40ページ

豊後大野市立三重東小学校 の成果と課題 41ページ

豊後大野市立百枝小学校 の成果と課題 42ページ

令和2年度「小学校教科担任制」導入の成果と課題(宇佐市立駅館小学校)

1 学習指導の充実

■専門性を活かした授業改善

- ・教科担任を決める際には、担任の希望や教師の専門性を活かした配置になるようにする。
- ・どの教科でも新大分スタンダードで実践できるように、職員研修を行う。

■「学習の約束」の共通理解と徹底

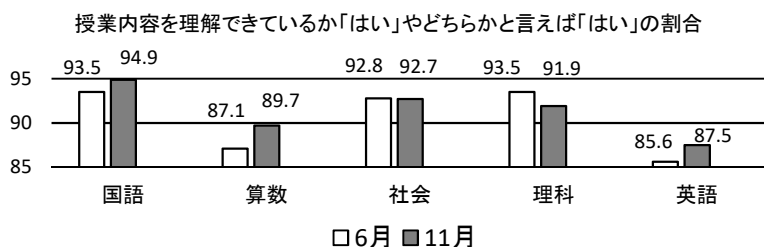
- ・昨年度の教科担任制の成果と課題を、高学年部会で周知する。
- ・年度当初に「学習の約束」を学年ごとのオリエンテーションで児童に共通理解させる。
- ・毎週木曜日の高学年部会で、次週の日課表を調整しながら決定する。

■協働的な学習指導

- ・算数については、教科担任任せにせず、どの担任も指導できるようにする。
- ・低位層の児童は放課後複数の教員で補充学習を行う。

成果と課題

- ・単元テストでは、1・2学期を比較すると、5年国語で9.7点、算数で0.1点、理科で1.3点、6年算数で2.4点、理科で1.5点の伸びが見られた。
- ・単元テストでのC・D層の割合を10%以下にするという指標が、5・6年とも国語・理科で達成されている。算数でも1・2学期を比較するとC・D層の割合が低くなってきている。
- ・児童質問紙調査の結果から、教科担任制を進めたことにより、国語・算数・英語において「授業の内容は理解できているか」の「はい」どちらかと言えば「はい」の割合が1.4%・2.6%・1.9%高くなっている。
- ・児童質問紙調査の結果から、「課題に自ら取り組んだ」の「はい」の割合が26.6%から28.7%と2.1%高くなっている。



2 生徒指導の充実

■組織的・協働的な指導体制

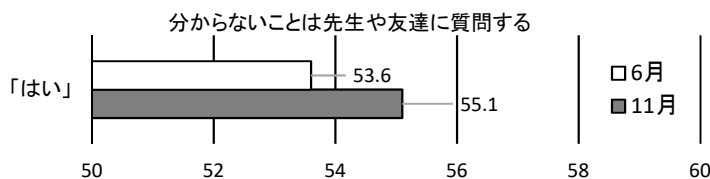
- ・学級や児童の様子を情報交換し、必要な際には学年集会を計画したり、指導の見直しを行ったりする。
- ・高学年部会で、日頃の悩みを出し合ったり、指導方法の情報交換を行ったりする。

■多面的な児童理解

- ・担任以外の教職員からも児童の様子やよさを情報交換する。
- ・担任以外の教職員も児童に気軽に声をかけ、子どもたちが勉強で分からないことを質問したり、悩みを相談したりできるような人間関係をつくる。

成果と課題

- ・週案作りでは、出張や年休の際、誰かがそのクラスに入れるように日課表を組み替えることができるので、授業時間を自習にすることがない。
- ・高学年部で統一した指導をすることができる。
- ・指導がしづらいクラスがあっても、担任が一人で悩むことなく、多くの教職員で協力しながら指導することができる。
- ・多くの教職員が児童の情報を交換しながら接することができるので、分からないことを質問したり、悩みを相談してきたりする児童が増えた。
- ・児童質問紙から、「分からないところがあったら、先生や友達に質問する」の「はい」の回答が1.5%高くなった。



3 中学校への円滑な接続

■学年部体制の充実

- ・毎週木曜日は、どの学年部も学年部会をもっている。学年長を中心に、学年部の連携を強化し、指導の共通理解を図っている。

■保護者への周知

- ・PTA総会で本校の教科担任制の取り組みを知らせ、理解を深める。
- ・PTAの学級懇談会でも、教科ごとの状況を紙面や話で伝える。

成果と課題

- ・児童質問紙の調査結果から、「教科担任制は良い方法だと思う」の「はい」という回答が、64%から69.1%へと高くなった。
- ・しかし、「担任の方が良い」と感じている児童も数人おり、教科担任制への抵抗がある児童がいることも見逃せない。そのような児童には、特に担任が積極的に関わりを持っていく必要がある。
- ・中学年でも担任間の授業交換をして、高学年へつなぐ取り組みも必要ではないか。
- ・学校評価アンケートでは、「担任以外の先生とする授業も楽しい」の児童の肯定的回答は、1学期の92%から2学期は94%にアップした。
- ・学校評価アンケートでは、「教科担任制、TT授業は子どもたちにとって良い取り組みである。」の保護者の肯定的回答は、98%にものぼる。

1 学習指導の充実

■ 専門性を活かした授業づくり

- ・担当教科の決定にあたっては、各担任の専門性を活かしながら決定できるように配慮し、教師のモチベーションが上がるようにする。
- ・2クラスでの交換授業に取り組み、指導の統一を図り、2度授業することで授業改善を進める。

■ クロス集計により学習意欲の向上をめざす

- ・児童質問紙の教科の愛好度と単元末テストの達成率をクロス集計し、その推移を見ていくことで児童の意欲を個別に追いながら授業改善につなげる。特に、達成率が60%未満の児童の学習意欲が向上することを目指し、授業の改善について学年部会で「授業改善・生活指導」の2つの項目をいれて話し合いができるようにする。
- ・1月に例年学力テストを行い、その結果を分析し、次年度につなげるように研修会をもつ。

成果と課題

- ・3年生以上の学年で教科担任と同学年の2人の担任での交換授業に取り組んできた。特に中学校に次年度進学する6年生では、算数と国語、音楽と図工、家庭科と総合の3つの教科で交換授業を進めてきた。その結果、1学期と2学期を比較すると、単元テストのD層の児童の割合が学校全体で減ってきた。
- ・専門性を活かした授業に取り組むことにより、教師のモチベーションが上がり、交換授業で2度の授業に取り組めたことで、授業の流れや課題などの練り直しが進んだことが授業改善につながった。
- ・1月の学力テストでは、次のような結果がみられた。

○学力テストの正答率と標準スコア(全国正答率を50とする)分析

	国語	算数	
5学年	+0.9	+3.6	算数推進教員
6学年	+2.1	+4.0	国語・算数交換授業

2 生徒指導の充実

■ 複数の目で見ることによる児童理解の充実

- ・教科担任制での教科担任や担任同士の交換授業に取り組んだ3年生以上の学年で、複数の教師で授業をし、指導にあたる。担任以外の教師が関わり児童の様子を共通理解する場をもつことで児童理解が深まることを大事にする。

■ 質問できる人間関係づくり

- ・担任以外の教師が授業をして関わることで、「困ったこと・わからないこと」などを教師に聞くことができる体制や雰囲気づくりをする。
- ・授業や生活の中で、自分の考えや気持ちを伝える場を多くつくり、「自分の思いを伝える・表現する」ことのできる児童を育成する。

成果と課題

～児童質問紙から、児童と教師の関わりをみる～

- ・質問18「授業でわからないところがあったら、先生に質問したり、友だちにやり方をたずねたりしていますか？」
- ・6月と11月の児童質問紙の数値の推移をみてみると「はい」とはっきり答えられた児童の割合が4.3%増えていた。「どちらかという」と含めると約87%の児童が質問できている。「いいえ」と答えた児童の割合は0.8%減っている。僅かではあるが質問せずにいる児童がわからないところをどうしているのかをしっかりとらみ、教師側からのアプローチをしていき、関わりを深めたり励ましたり家庭との連携をする必要がある。「いいえ」と答えた児童との関わりについて学年部で補い合いながら信頼関係づくりを進め、児童同士の関係を複数で見つなかりをつくる。

3 中学校への円滑な接続

■ 6年生で充実した教科担任制を

- ・中学校へのスムーズな移行を考え、特に6年生で算数や国語などの5教科での質の高い専門性を活かした授業づくりをし、授業改善を進める。

■ 宇佐市・地域への周知

- ・本校の取り組みについて、宇佐市の教務主任会で発表したり、PTA懇談会、学校協議会で報告したりして、意見を聞いていく。

成果と課題

～交換授業による2度の授業での授業改善～

- ・6年生では交換授業を6教科で進めた。その結果教材研究をする時間が増え、より多くの児童の考えをつかむことで授業の流れや課題についての練り直しが進んだ。
- ～「教科担任制についてどう思うか」6年生の結果～
「はい」72.3% 「ど はい」21.8% 「ど いいえ」4.2% 「いいえ」1.7%
約94%の児童が肯定的に考えていることがわかる。
- ・宇佐市での教務主任会で本校のクロス集計やそのねらい・みとりについて詳しく報告した。学校運営協議会でも教科担任制のねらいをしっかりと伝えることができた。

1 学習指導の充実

■意欲向上を実現する授業づくり

- ・学年始に教科担任制の手引きを活用しての研修を行い、共通理解する。
- ・担任の得意分野を活かした授業交換を行う。
- ・校内研修、互見授業等を通じて担当教科のスキルアップを図る。

■教材研究の効率化

- ・担当授業時数の平均化を図り、教材研究等の時間を確保する。
- ・担当教科での子どもの様子や指導法等、日頃から相談できる体制を作る。
- ・習熟度別指導、少人数指導と連動させる。(4・5年算数、国語)

成果と課題

【成果】

- ・児童質問紙調査より、「授業の内容は理解できますか」で、「はい」の回答が6月⇒11月で、国語4.7P、算数4.8P上昇した。特に、6年生の質問紙調査の結果(11月)より、「授業の内容は理解できていますか」の「はい」やどちらかと言えば「はい」の割合が、国語100%、算数98%、理科100%と高くなっている。
- ・単元テスト平均点は、国語・算数・理科において、80点を超えた。
- ・教科担任制の6年生国語を、校内研の提案授業で行い、全職員で研修を深めることができた。
- ・教科担任制授業を見通した全校の日課表を作成し、行事や出張等の状況に応じて、その都度変更することができた。
- ・学校評価で、「教科担任制(4・5・6年)は実施でき力がついてきている」が86%(1学期)⇒89%(2学期)で、「難しい勉強でも最後までねばり強く取り組めるように指導できた」は77%⇒83%と職員の意識も高まっている。

【課題】

- ・来年度、高学年が単学級となり、一学級の人数が多いことから、実情に応じたきめ細かな指導を行うことが課題となる。

2 生徒指導の充実

■複数体制による多面的な児童理解

- ・学年部会を定期的で開催し、児童の情報や指導の方向性を全職員と共有する。
- ・複数体制で対応していくことで多面的に児童を見ていく。
- ・ドリルタイムを複数体制で行い、低学力層の児童への学習支援を行う。また、児童のつまづきを把握し、授業改善に生かす。

成果と課題

【成果】

- ・教科担任制を実施していることで、日頃から担当教科の進捗状況や指導内容、児童の様子等を話す機会が増えてきた。
- ・担任だけでなく、担任外も児童と関わりが増え、気になることがあるときは、すぐに相談できる体制ができています。
- ・児童アンケートで「学校に行くのが楽しい」の回答が87%⇒89%に上昇し、「楽しくない」と回答した児童が15人⇒7人に減少した。
- ・ドリルタイムは低学力層の児童や気になる児童に担任外も一緒に指導することができた。学校評価「低学力層の児童に具体的に支援することができた」71%⇒93%

3 中学校への円滑な接続

■学習規律の確立

- ・「チャイムでスタート」等、統一した学習ルールの確認と、「新大分スタンダード」の授業実践を行う。

■ブロックで連携した生活習慣の確立

- ・生活見直し週間の中で、中学校ブロック共通の取組「メディアコントロール」を進めていく。

成果と課題

【成果】

- ・児童質問紙調査より教科担任制を肯定的にとらえている児童が91.5%と高い傾向にある。
- ・三つの間(四南スタイル)「考えを持つ・書く・出し合う」を確保した授業に取り組み、生徒指導の3機能と連動した実践を進めることができた。学校評価73%⇒80%。

【課題】

- ・メディアコントロールができていない実態があるので、学校と保護者との連携が必要になる。

1 学習指導の充実

■授業改善の工夫

- ・指導教科数の減少により、教材研究の時間を確保することができる。
- ・2学年の同じ教科を担当することで系統性がよく見え、指導に生かすことができる。

■学習規律の共通理解

- ・授業者ごとに学習ルールに差が出ないよう、学年始に職員で共通理解を図る。
- ・学年始めにオリエンテーションを開き、担当教科の先生の紹介や学習ルール等について児童に知らせる。
- ・学期に1回、アンケートを実施し、自分たちの学習を振り返る機会をもつ。

成果と課題

【成果】児童アンケートより

	1学期	2学期
たくさんの先生に教えてもらうことはよい	97.3%	94.7%

- ・教科担任制を肯定的に捉え、意欲的に学習に取り組んでいる子どもが多い。
- ・単元テストの結果や宿題の取組等の交流を職員で行うことにより、担当教科以外の学習状況を把握することができた。

【課題】

- ・流動的な時間の運用ができにくく、行事前の調べ学習等を限られた時間の中で行うには難しい面がある。計画的に行っていく必要がある。

2 生徒指導の充実

■学年部組織の充実

- ・週に1回高学年部会(担任と教科指導に係る教員で構成)を実施し、子どもの様子について情報交換をする。
- ・複数教員での指導により、児童を多面的に見ることができる。



成果と課題

【成果】

- ・学習面、生活面ともに常に情報交換を行い、早い段階での対応ができる体制を組むことができた。多くの教員が様子を見たり声をかけたりすることで不安が和らいでいる子どももいる。



【課題】

- ・学級での時間を多く確保したいときに、日課表の変更をする必要がある。

3 中学校への円滑な接続

■中学進学時の不安解消

- ・教科によって先生が変わることや学習面での不安を少しでも減らすことができるように働きかける。



成果と課題

【成果】

- ・教科担任制の授業を中学校の先生に公開し、小学校の様子を知ってもらう機会を作ることができた。
- ・子どもたちの声として、中学校で教科の先生が入れ替わることに對する不安を感じている子は少ない。

【課題】

- ・小中ともに、授業の進め方や課題の出し方等について知る機会を設け、入学時にスムーズなスタートが切れるように進めていく必要がある。

1 学習指導の充実

■子どもの戸惑い・困りの解消

- ・学習指導を充実させるために、前年度の子どもの困りとその解決策を共有し、教科担任制がスタートする5年生が同じような戸惑いや困りを感じないように配慮した。

(子どもたちの戸惑い・困り)

- ①教科担任によって授業の進め方に違いがあることへの戸惑い
- ②教室移動の大変さ
- ③教科担任との連絡の取り方の大変さ

■系統性を持った指導

- ・6年生と学習する時には、5年生で学習した内容を意識しながら進めた。
- ・5年生と学習する時には「6年生になった時に、どのような学習をしていくのか」を意識して進めた。

■校内研究との関わり

- ・研究内容や授業展開等を教職員で共有し実践した。
- ・互見授業を実施し、授業後に成果と課題を共有し、それぞれの授業に役立てた。
- ・教科担任制の公開授業に向けて授業研究を行った。

成果と課題

【成果】

- ・前年度の子どもの戸惑いや困りをもとに配慮したり授業方法を改善したりすることで、年度当初の5年生の戸惑いや困りが少なかった。
- ・校内研究を中心に授業改善の方向を共通理解し授業を行うことで、どの教科も充実した学習指導を行うことができた。
- ・教科を特定して教材研究をすることができ、授業改善ができた。特に、教科の学年間のつながりを理解することができ、授業に生かすことできた。

〈授業の内容は理解できていますか?〉

※小学校教科担任制に係る児童質問紙をもとに集計

	5年生			6年生		
	6月	11月	2月	6月	11月	2月
はい	65.8%	61.7%	72.3%	62.8%	73.4%	70.9%
どちらかといえばはい	30.8%	33.3%	27.7%	37.2%	26.6%	26.4%
どちらかといえばいいえ	1.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
いいえ	1.7%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%

【課題】

- ・担任が担当教科だけではなく子どもの学力や学習の様子を全体的に把握するために、教科担任間の情報共有が必要である。そのためのよりよい方法を考えていきたい。
- ・より充実した学習指導を行うために、横断的な学習について考えていきたい。

2 生徒指導の充実

■多面的な子ども理解

- ・毎週火曜日の学年部会で、子どもの様子の情報交換を行った。特に、課題を抱えている子どものことや、授業中に気になった子どもの姿については細かく情報交換を行い、学年部の職員全員で声かけをした。
- ・学年部会の場だけでなく、日常的に情報交換を行った。
- ・週1回の職員暮会において、気になる子どもについての情報交換を行い、全教職員で支援していけるようにした。

成果と課題

【成果】

- ・高学年部に関わる教職員がより協力的になった。また、学級担任という意識だけでなく、学年部の担任として情報交換を密にしながらともに指導にあたるようになった。
- ・複数の職員で子どもたちに関わることができ、子どもたちの多面的な理解につながった。
- ・子どもたちは担任以外の先生との関わりが増えたと感じている。

【課題】

- ・子どもの指導をタイムリーに行いたい時に、日課表の変更をして対応したが、変更が難しい時があった。
- ・複数の職員で子どもに関わることができる反面、担任が子どもとの距離を感じる時があった。保護者の中にも「担任との関係が希薄なるのでは」という声があった。
- ・年度当初に担任が子どものことを理解するまでに時間を要した。

3 中学校への円滑な接続

■ 中学校進学を見通した指導

- ・教科担任制に対しての子どもの戸惑いや困りの解消を考える時に、中学校進学に向けて必要な力をつけることも視野に入れて解決策を考えた。

成果と課題

【成果】

- ・たくさんの先生から学ぶ良さを感じる子どもが増えた。
- ・6年生は、ほとんどの子どもが中学校での完全教科担任に対して安心感を持っている。

〈教科担任制で、いろんな先生と関わること(勉強したり話したりすること)はよいことだと思いますか。〉

※児童アンケートより

	5年生	6年生
よいと思う	26人	34人
よいと思わない	0人	0人
分からない	2人	3人

(子どもの声)

- ・中学生になって本格的に教科担任制になるから慣れた方がいい。
- ・中学校に入って急に変わるとわけがわからなくなるから前々からやって慣れるのはよい。

(保護者の声)

- ・高学年であれば、中学校への移行がスムーズで良いと思います。本人も「わかりやすい」と言っています。

【課題】

- ・小学校での取り組みを中学校とも共有することが大切である。
- ・中学校に進学した子どもたちの様子(完全教科担任制にスムーズに慣れていけたかなど)を情報共有して今後の取組に生かしていきたい。

1 学習指導の充実

■「小学校教科担任制」の充実を図るための体制づくり

- ・5・6年だけではなく、全学年間の担当を見直し、授業時間数や子どもの実態を加味し、作成した。全学年の授業時間数・空き時間の偏りがないように配慮した。
- ・毎日授業がある国語と算数は、学級担任が子どもの理解状況を把握できるように配慮した。

1学期

「はい」
56.7%
どちらかといえば「はい」
29.9%

2学期

「はい」
72.1%
どちらかといえば「はい」
23.5%

3学期

「はい」
75.0%
どちらかといえば「はい」
19.1%

成果と課題

【成果】

- ・空き時間があること・指導教科が限られていることで、充実した教材研究・授業準備ができた。
- ・複数学年の担当教科を系統的に教材研究ができる。
- ・「国・社・算・理の全てを学級担任と専科で交換授業という形だったが、他教科や体験学習などの兼ね合いを考えると、難しいことが多かった」という昨年度の反省をふまえて、今年度は他教科との関連が多い国語を担当が受けもち、成果が表れた。
- ・児童アンケート「教科によって授業をする先生が入れ替わる教科担任制はよい方法だと思いますか」の質問に、学期が進むにつれ、肯定的に捉えられている子どもの割合が増えている。2年目になり、子どもたちも「教科担任制」という体制に慣れ、そのよさを実感しているように思える。(←左図)

【課題】

- ・前年度は6年が2クラスで、そのクラス分だけ教材研究や準備も効率的で深めることができたが、今年度はどちらも1クラスしかないのではそれは難しい。今年度の空き時間は教科担任制の加配+(理科)専科+学習支援教員のコマ数で、全学年に偏りがないように努めた結果である。教科担任制の加配なしには、時間的余裕は生まれない。
- ・算数では、5年生まで指導法工夫改善の少人数で授業をしていた6年生は、今年度より教科担任制によるクラス全体での授業になり、人数が増えたことへの戸惑いが感じられる。

2 生徒指導の充実

■組織的・協力的な指導体制

- ・5・6年の朝の出会いをスムーズに行うために、1校時は学級担任の授業が入るように配慮した。
- ・日課表の1限目は、学級担任の授業にする。
- ・複数の教職員での指導。

成果と課題

【成果】

- ・1日の始まりが担任との出会いからという設定にすることで、その日の子どもの様子を観察でき、生徒指導にいかすことができた。
- ・チーム高学年部として生徒指導にあたることができる。また、子どももいろいろな先生に相談ができる。
- ・これまで、学級担任一人で抱え込みがちな生徒指導も、担任以外のいろいろな視点からみることができた。
- ・週一の週案づくりで学年部会をもち、時間割の調整をしている。その際、出張時の組み替え等を学年部で共有し、2学級の時間割とその時間の担当教職員がわかる表を職員室に掲示した。

【課題】

- ・担任外の授業でおきたトラブルやその他の時間に起きたことなどを共有するのが難しいときがあった。

3 中学校への円滑な接続

■学びの連続性の確保

- ・中学校での教科担任制に向けての準備。

成果と課題

【成果】

- ・2年目になるので、複数の教職員が1日の中で出会い、指導にあたるという体制に、子どもたちも慣れ、その良さを実感しているように思える。
- ・教室を移動しての授業の際、素早く静かに移動していくことも習慣化できている。

【課題】

- ・上記アンケートには否定的な意見の子どもも少人数ながらいることを踏まえ、変化への対応に厳しい子どもの気持ちに寄り添った指導を引き継ぎたい。

1 学習指導の充実

■学習規律の共通理解と徹底

- ・学年始めに「めあて」「課題」「まとめ」等の板書方法を共通理解
- ・定期的な学習規律に関するアンケートの実施と結果の周知

成果と課題

- ・付けたい力を明確にした「課題とまとめ」「めあてと振り返り」のある授業の実施率が、95.7%に上っている。
- ・学年間の学力格差は大きいものの、課題を分析し細かな分析をすることで、特に厳しい学年の学力に向上の兆しが見えてきた。
- ・2月の児童アンケートにおいて、教科担任制を好意的に受け止めている子どもの割合は、94%である。

2 生徒指導の充実

■定期的な情報交換

- ・日課表編成時や休憩時間等での児童に対するこまめな情報交換の実施

成果と課題

- ・子どもたちの小さな変化にも複眼的に対応できるようになった。
- ・突発的な事象に対しては、担任が即応できないこともあった。
- ・時間を生み出すことは難しいが、できるだけ情報を共有するよう伝え合った。

3 中学校への円滑な接続

■取り組みの交流

- ・三重町学力向上部会での実態交流

成果と課題

- ・三重町学力向上部会で中学校の教員へ本校の取り組みを紹介した。今後は、授業参観や意見交換などしたものを中学校へつなぐなど、その先への道筋を明確にしていきたい。

1 学習指導の充実

■授業改善の取組

「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を目指し東小スタンダードを徹底する。
《取組内容》

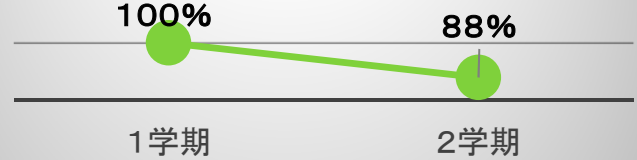
- ・単元計画や授業の流れを示す。
- ・自分の考えを持たせ、ペア学習やグループ学習で考えを広めたり深めたりさせる。
- ・UDの視点に基づいた授業および学習環境を作る。

■互見授業・授業研究の取組

提案授業と互見授業を合わせて1人年間3回以上行い、授業を参観し合うなかで効果的な指導方法の研究および実践を行う。

成果と課題

【教師】学習指導の充実に つながっているか



系統的な学習指導や専門性を生かした教科指導で、単元末テストや学力テストでの得点の向上は見られたが、教師自身の資質向上につながったという実感は少なかった。コロナ禍におけるペア、グループ学習の効果的な学習方法を模索する必要がある。

2 生徒指導の充実

■共通理解のための時間設定

児童の実態を交流するための時間を確保し、指導方法や方向性を共通理解する。

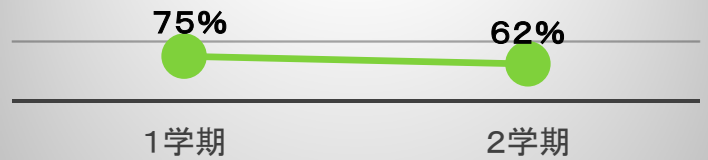
《取組内容》
・校時表を変更し、木曜日の朝10分間の打合せ時間と月曜日の放課後時間の確保を行う。

■認める・ほめる取組

「認める・ほめる」という東小スタンダードの声掛けの徹底を図り、組織的な生徒指導を充実させる。

成果と課題

【教師】組織的・協力的な生徒指導が できているか(肯定率)



コロナ禍で新学期のスタートが遅れ、児童理解が2学期までずれ込んだ。運動会以降の生徒指導事案が多く、チームで解決方法を検討することが多かった。

3 中学校への円滑な接続

■教科担任制の抵抗感をなくす取組

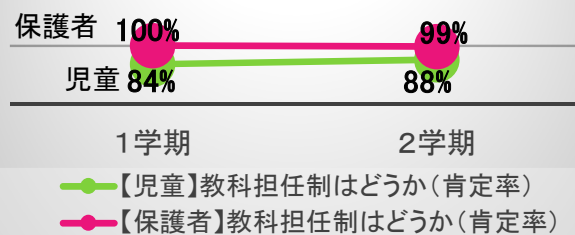
指導方法や方向性を共通理解するとともに、中学校訪問などを通して、児童の抵抗感を少なくする。

■保護者に実践を知らせる取組

教科担任制の取組や児童の実態を積極的に知らせる。

成果と課題

教科担任制はどうか(肯定率)



1学期末2学期末のアンケートとも、児童も保護者も大半が肯定的に受け止めている。

1 学習指導の充実

■ 学習規律と授業改善の取組

- ・学校全体で、学習規律について共通理解し、統一したことを徹底する。
- ・家庭学習の取組方ややり直しについて共通理解する。
- ・指導教科数を少なくし、教材研究の時間を確保する。
- ・授業の流れや板書について、推進教員を中心とした研修を行い、実践する。

■ 個に応じた指導の充実

- ・複数の教員で指導にあたり、子どものつまずきに迅速に対応する。
- ・学級担任と教科担任で連携して、個別指導を行う。

成果と課題

【成果】

- ・教科担任が学級担任と学習状況について情報交換し、子どものつまずきに早めに対応することができた。
- ・複数学年で教科指導するので、教科の系統性をとらえて、指導に活かすことができた。
- ・学級担任が教材研究・準備の時間がとれるので、ICT等活用した充実した授業準備ができて、子どもの意欲向上につながった。
- ・「わからない時に誰にきくか」というアンケートでは、「そのまましておく」児童は0%、「先生に聞く」児童は33%であった。また「自分で調べる」児童は28%で年度当初より5%高くなったことから、学びに向かう力がついてきていると言える。

【課題】

- ・単学級での交換授業では、同じ授業を複数回することによるメリットを活かせない。
- ・小規模校では、配置人数が少ないので、授業の持ち時間や担当教科数があまり減らない。



2 生徒指導の充実

■ 多面的な児童理解

- ・児童情報交換の場を週1回持つ。
- ・複数の教員で子どもを見守り、指導することで、個性の伸長を図る。

■ 組織的・協力的な指導

- ・情報交換を密にして、学校として同一歩調で子どもの指導にあたっていく。
- ・学年部の組織運営をしっかりする。
- ・担任以外の教員とも気軽に相談できるような雰囲気を作る。
- ・担任以外でも同じ指導が徹底できるように生活ルールをきちんと確認する。

成果と課題

【成果】

- ・複数の教員が児童に関わるので、児童理解が深まり、生徒指導に活かせた。
- ・学年部で複数の教員が子どもを指導していくことで、子どもの良さや可能性を引き出し個性を伸ばすことができた。
- ・学校として統一した学習や生活のルールについて、複数の教員が繰り返し指導し、徹底することができた。
- ・思春期を迎えた高学年の子どもの悩みや問題行動を早期に発見し、対応を組織的に考えることができた。

【課題】

- ・配慮が必要な児童については、指導者が変わることへの不安がないよう、情報共有をしっかりしておく必要がある。また、保護者の理解を得るために教科担任制のよさや目的について、学校だよりや学級懇談等を通して広報していくことが大切である。

3 中学校への円滑な接続

■ 連携型小中一貫教育の取組

- ・学習指導・生徒指導において、共通の指導項目を設定して、取り組む。
- ・小中学校で互見授業を行い、各教科の指導力の向上をめざす。

■ 小小連携の取組

- ・小小で連携して、合同行事を行うことで、情報交換し、校内での指導に活かす。

成果と課題

【成果】

- ・小中学校で互いに授業を見合うことで、担当教科の授業改善に活かすことができた。
- ・中学校区で、連携型小中一貫教育を進めているので、学習指導・生徒指導のノウハウを交流し、指導に活かすことができた。

【課題】

- ・アンケート「教科によって授業する先生が変わることをどう思うか。」では、保護者95%児童95%が肯定意見であった。しかし、児童によっては、学級担任以外の教員との関係性を築くことが、きつい場合もあるので、個に応じた配慮が必要である。



小学校教員の専門性を高めた質の高い授業の促進
～小学校教科担任制の導入～
手引き(Ver.3)

大分県教育庁義務教育課学力向上支援班
〒870-8503
大分市府内町3丁目10番1号
TEL (097) 506-5519